

Kyokuryo Exchange Program

「旭陵留学生プログラム」 Newsletter

岐阜県立中津高等学校

同窓会

平成30年3月30日

Vol.9

この春卒業した第12期生 熊澤萌里さんの卒業レポートをお届けします。萌里さんは4月から南山大学国際教養学部国際教養学科に進学します。南山大学の国際教養学科では、**文化の垣根や境界を乗り越えて、異なるイデオロギーや価値観を尊重し、持続可能な社会(Sustainable Society)を実現するために積極的に行動でき、諸問題の解決に向け他者と協働しつつ、積極的に行動できる人材を育成する**という理念があります。萌里さんも持ち前のバイタリティーを生かし、国際社会で活躍する人材になることでしょう。

高校生活4年間がついに終わりました。この4年間はわたしの中でとても充実しており、沢山のひととの出会いの連続の4年間でした。本当に多くの方に感謝しています。特に留学での出会いは私にたくさんのことを教えてくれました。沢山の情報で溢れた世の中で1番人を成長させてくれるのはひととの関わりやその中での経験だと私は



思います。旭陵留学のおかげで私は高校生の間にとっても多く

の世界との関わりを持ってました。アメリカで生活した1年は毎日吸収することが多く、とにかく人と話すようにし、自分を追い込んだ日々でした。人と関わるということの中で大切だと気づいたことは、自分の意見を常に持つことです。話を聞くだけではコミュニケーションではない、ということに気づいたとき、すごく焦りを感じたことを今でも覚えています。そしてそこから私の中で

「英語を話す」、というよりも「自分の意見を話す」、という意識が強くなりました。きっとこの感情は実際にアメリカで生活し多くの人と関わったから理解できたことなのではないかと思っています。

アメリカでは文化や宗教以外にも自分の弱さは時に強さになること、家族の大切さ、人に感謝することと笑顔は世界共通であること、など本当に多くのことを学びました。時にこの留学によって1年学年が下がり4年間高校へ行かなくてはならないことを良くないことのように言われることがありますが、私はその4年間がいかに濃くて充実しているか、そして価値あるものかを多くの人に伝えたいです。実際1つ学年が下がったおかげで下の学年の子たちとも仲良くなることができ、より多くのつながりを持つことができました。留学によってひととの出会いはとても大きく広がりました。これはかけがえのない出会いばかりで一生大切にしたいと思っています。



一番気の合った仲間と

大学進学後も世界の人との関わりをより広げていきたいと考えています。世界にはまだまだ私の知らないことや知らなくてはならないことが沢山あります。なので日本にこだわらず世界中で学ぶ場所を探したくさんのことを経験を通して学んでいきたいです。少しでも「人を幸せにできる人」になれるように、知識や言語の幅を増やし、活躍していけるような人材になれるように頑張っていきたいです。



同期の平岡咲奈さんとのショット